浮浪者の智能検査成績

Mental Test of Vagabonds

日本醫科大學衛生學教室 (主任 八田貞義教授)

講 師 井 之 川 孝 雄

Inokawa Takao

多 賀 ミ チ

Taga Michi

(本論文は昭和 25 年井之川が日醫大學會で、多賀が東京都衛生局學會で発表した。)

1. 緒 言

敗戦に於ける社會的混亂の犠牲の一つとして所謂浮浪者が續出した事は悲しむべき現象であり、特に東京都では上野驛地下道を中心として群をなして集團生活をする状態であつたが、私達はこの人達の智能検査を行ふ機會を得た。従來人の智能に關する研究は多く、検査法に關しては 1906 年 Binet and Simon⁽¹⁾の研究以來 Termann⁽²⁾, Juda⁽³⁾, Stern⁽⁴⁾等を始め、本邦に於ては久保⁽⁵⁾, 三宅⁽⁶⁾, 鈴木⁽⁷⁾, 諏訪⁽⁸⁾, 田中⁽⁹⁾等があり、最近では三浦⁽¹⁰⁾の方法がある。心理學的なものには大伴⁽¹¹⁾, 吉益⁽¹²⁾, 松本⁽¹³⁾, 關⁽¹⁴⁾, 桐原⁽¹⁵⁾, 園原⁽¹⁶⁾等の方法がある。智能テストの業績は學童に關するものは尼野⁽¹⁷⁾, 一丸⁽¹⁸⁾, 稻葉⁽¹⁹⁾, 岡崎⁽²⁰⁾, 小川⁽²¹⁾, 久保⁽²²⁾, 下田⁽²³⁾, 高橋⁽²⁴⁾, 東京都⁽²⁵⁾, 三田谷⁽²⁶⁾, 松本⁽²⁷⁾, 高口⁽²⁸⁾⁽²⁹⁾⁽³⁰⁾, 渡邊⁽³¹⁾, 河村⁽³²⁾等があり、成人及び精神異常者では内村⁽³³⁾, 園原⁽¹⁶⁾, Stern⁽⁴⁾, 淡路⁽³⁴⁾, 桐原⁽¹⁵⁾, Termann⁽²⁾, 今井⁽³⁵⁾等があり、兒童の學業成績との關係では淺野⁽³⁶⁾, 一丸⁽¹⁸⁾, 喜多浦⁽³⁷⁾⁽³⁸⁾, 久保⁽²²⁾, 高橋⁽²⁴⁾等があり、疾病との關係では垂井⁽³⁹⁾, 本郷⁽⁴⁰⁾, 樋口⁽⁴¹⁾等があり、體格及び發育との關係では尼野⁽¹⁷⁾, 岡崎⁽²⁰⁾, 小川⁽²¹⁾, 久保⁽²²⁾, 高橋⁽²⁴⁾, 松本⁽¹³⁾, 三田谷⁽²⁶⁾, 藤本⁽⁴²⁾等の成績があるが、浮浪者に就ての成績は中⁽⁴³⁾, 尼崎⁽⁴⁴⁾の研究があり甚だ少ないので敢て成績の概要を報告する。

2. 研究方法及び對象

對象は上野驛地下道に群居する所謂浮浪者

で、成人男、女子は夫々 129 名、42 名、男兒 179 名を昭和 25 年 1 月 10 日から 4 月 30 日迄の間、發疹チフスの患者發見及び豫防接種時に、任意に大坂式⁽⁷⁾で智能検査を行ひ、全部終了したもののみを採つた。

3. 成 績

第 1 節 成人に關する成績

第 1 項 成人の學歴に就て

被檢者 171 名の學歴に就てみると第 1 表の如く、専門學校以上の卒業者は男子 13 名、女子 2 名、合計 15 名 8.77%、中等學校率は 69 名 40.33%で、半数の 87 名 50.88% は小學校卒である。

第 1 表 被檢者の學歴

性 別 學 歴 別	男	女	計	%
大 學 卒	4	0	4	2.34
專 門 卒	9	2	11	6.43
中 卒	53	16	69	40.35
小 卒	63	24	87	50.88
計	129	42	171	100.00

第 2 項 智能指數に就て

被檢者の智能指數 (以下 I. Q と略記する) は第 2 表の如く、男子では「優秀」は「専卒」の 1 名 0.78%、「良智」はなく、「普通」は 17 名 13.18% で、内譯は「大卒」1 名、「専卒」2 名、「中卒」11 名、「小卒」3 名、「劣等智」は 20 名 15.50% で、内譯は「大卒」3 名、「専卒」4 名、「中卒」9 名、「小卒」4 名、「精神薄弱」は 91 名 70.54% で、内譯は「専卒」

第2表 被検者の智能指數

区分	I. Q.	優 秀	良 智	普 通	劣等智	精神薄弱	計
		131 以上	111~130	90~110	71~89	70以下	
男	人員	1	0	17	20	91	129
	%	0.78	0	13.18	15.50	70.50	100.00
女	人員	0	0	4	15	23	42
	%	0	0	9.53	35.71	54.76	100.00
計	人員	1	0	21	35	114	171
	%	0.58	0	12.28	20.47	66.67	100.00

註：I. Q. は智能指數の略，以下同様。

2名，「中卒」33名，「小卒」56名である。「優秀」の1名は某藥專卒，「普通」の專卒1名は某齒科醫專卒であつた。女子では「優秀」，「良智」ともになく，「普通」は4 9.53% 名で内譯は「中卒」2名，「小卒」2名，「劣等智」は15名 35.71% で，内譯は「專卒」2名，「中卒」10名，「小卒」3名，「精神薄弱」は23名 54.76%，内譯は「中卒」4名，「小卒」19名であつた。従つて以上の成績から終戦時の社會狀態の混亂を充分に考慮し，終戦後日本人の智能低下を考えても⁽⁴⁾，大學，專門學校を卒業し得る智能程度は「良知」以上とされて居り⁽⁷⁾ ⁽⁸⁾⁽¹¹⁾「貧すれば鈍する」の感があると考えられる。

第3項 成人の職業

被検者 171 名の職業をみると第3表の如く，「煙草拾ひ」が最も多く 33.93%，最も少ないのは「ブローカー」の 2.34% である。性別にみると男子は「煙草拾ひ」が多く 32.56%，少ないのは「無職」の0.78%，女子では男子と同様

に「煙草拾ひ」が最も多く 38.09%，最も少ないのは「ブローカー」の 2.40% で，「無職？」が14名 33.33% である。「切符うり」「坐席とり」は男子のみで，浮浪者では安易なことを業とするものが多く，全體の 30% 以上をしめている。

第2節 子供に関する成績

第1項 浮浪兒の年令別

浮浪兒の女兒は少ないため男兒のみに限り179名で，年令別は第4表の如く，12，13才の所謂春期

發動期は116名 64.80% をしめていることと，7才，8才の子供があるのは考えさせられる。

第4表 浮浪兒の年令別人員表

年令	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
人數	1	6	7	4	10	55	61	20	15	179

115(64.80%)

第2項 浮浪兒の智能指數

被檢兒の I. Q は第5表の如く，一般學童の I. Q も戦後低下しているといわれているが⁽⁴⁶⁾，浮浪兒に於ても一般兒童と大差のない結果を示している。

第5表 被檢兒の I. Q.

区分	優 秀	良 智	普 通	劣等智	精神薄弱	計
I. Q.	131以上	111~130	90~110	71~89	70以下	
人員	2	14	75	69	18	179
%	1.11	7.83	42.46	38.55	10.05	100.00

第3表 被 検 者 の 職 業

職業別	ブローカー	切符うり	新聞うり	煙草拾ひ	坐席とり	パタヤ	手傳ひ	無 職	計
性 別									
男	3 (2.32)	12 (9.30)	18 (13.95)	42 (32.55)	17 (13.18)	31 (24.03)	5 (3.88)	1 (0.78)	129
女	1 (2.40)	0	5 (11.99)	15 (38.09)	0	3 (7.14)	3 (7.14)	14 (33.33)	42
計	4	12	23	58	17	34	8	15	171
%	2.30	7.01	13.45	33.93	9.94	19.84	4.58	8.77	100.00

第3項 浮浪児の職業

浮浪児の職業に就ては第6表の如く、「煙草拾ひ」が最も多く 28.49%、「運搬手傳ひ」も

わずか 4.47% あり、此處でも安易な仕事をもとめる人間性を充分に現わしている。

第6表 浮浪児の職業

職業別	煙草拾ひ	新聞うり	ブローカー	坐席とり	切符うり	物乞ひ	運搬手傳ひ	其 他	計
人 員	51	26	22	21	16	25	8	10	179
%	28.49	14.53	12.29	11.73	8.94	13.96	4.47	5.59	100.00

第4項 浮浪児になつた原因

浮浪児になつた原因に就てみると第7表の如くである。これは勿論浮浪児の答であるから全面的に信頼はおけないとしても一應の目標にはなると考えられる。最も多いのは「家庭的な事

情」で 93 名 51.96% をしめていて、最も少ないのは「住み込み先がいや」という 9 名 5.02% である。従つて家庭を明るく和やかにすることは、浮浪児の原因を取り除く最も重大な要素である事がわかる。

第7表 浮浪児になつた原因

理由別	求 職	家が面白くない	父と不和	母と不和	繼 母	兄弟と不和	不良行爲	住込先がいや遊びたい	計
人 員	51	40	23	6	15	9	15	9	179
%	28.49	51.96					8.38	5.02	100.00

第5項 浮浪児の出生地

浮浪児の出生地をみると第8表の如く、距離の関係からか關東地方が最も多く 89 名 49.72%、内譯は東京 18 名、茨城 14 名、埼玉 16 名、神奈川 28 名、千葉 2 名、群馬 7 名、栃木 4 名である。次いで東北地方の 41 名 22.91% で、内譯は福島 22 名、山形 11 名、秋田 5 名、宮城 3 名である。次に中部地方の 20 名 11.17% で、内譯は新潟 12 名、長野 5 名、山梨 3 名である。以下は北海道の 11 名、九州の 10 名、四國の 4 名、外地引揚 4 名である。特に注目すべきことは東京の 18 名、外地引揚の 4 名で特異な感を抱かせる。

4. 總括及び結論

昭和 24 年發疹チフスの爆發的流行時に、1 月 10 日から 4 月 30 日迄、東京都上野驛地下

道附近に集團生活を営んでいる、所謂浮浪者男、女 171 名、浮浪児 179 名に大坂式智能テスト及び二三の事項に就て調査の結果は次の通りである。

1) 浮浪者中には大學卒、専門校卒は夫々 4 名、11 名あつたが、50.88% は小學校卒であつた。

2) I. Q は「普通」以上は 22 名 12.86% で、149 名 81.14% は「普通」以下で、「精神薄弱」は男子 91 名 70.54%、女子 23 名 54.76% であつた。(1)、(2)の事から所謂「貧すれば鈍する」という諺も多少信頼出来るのではなからうか。

3) 浮浪者の職業は體力、智能を使わずにすむ仕事に従事する者が多く、「煙草拾ひ」が最も多く 33.93%、特異なのは女の「無職?」が多く、最も少ないのは「ブローカー」の 2.34% である。

4) 浮浪児 179 名の内 11~12 才が 116 名 64.80%、7、8 才のものがいることも社會相

第8表 浮浪児の出身地

出身地	關 東	東 北	中 部	北海道	九 州	四 國	外地引揚	計
人 員	89	41	20	11	10	4	4	179
%	49.72	22.91	11.17	6.15	5.59	2.23	2.23	100.00

を示すものである。

5) 浮浪児の I Q は一般児童と大差はない。

6) 浮浪児の職業は「煙草拾ひ」が最も多く、「新聞賣り」、「物乞ひ」等も多く、「運搬手傳ひ」は最も少なく8名4.47%である。

7) 浮浪児になった原因は家庭的事情が最も多く93名51.96%,次いで「就職」の28.49%で其他は少ないが、我々を考えさせるものがある。

8) 出身地別をみると距離の關係か關東が最も多く89名49.72%,次で東北の41名の順であるが、出身地東京は18名、外地引揚者の4名は社會的狀勢から我々に考えさせるものが多い。

稿を終るに臨み鹽田學長先生に心から敬意を表し、御指導御校閲を賜つた恩師八田貞義教授に満腔の謝意を捧げ、研究に助成をいただいた毎日新聞社會部の方々に深謝し、昭和25年8月17日毎日新聞に掲載された。

参 考 文 献

- 1) (5) 参照
- 2) L.M. Termann., The Measurement of Intelligence. 1916.
- 3) A. Juda., Z.f.d. ges. Neur. u. Psychiatr. 166, 1939.
- 4) W. Stern., Die Intelligenz der Kinder und Jugendlichen. 4. Aufl. 1928.
- 5) 久保良英, 智能査定法 中文館 昭17
- 6) 三宅鐵一, 精神測定法 吐鳳堂 昭2
- 7) 鈴木次太郎, 智能検査法 東洋圖書 昭25
- 8) 諏訪望, 智能検査の理論と實際 南山堂 昭22
- 9) 三浦義雄, 三浦式智能テスト手引. 教育テスト研究所. 昭25
- 10) 田中寛一, B式智能検査指針 藤井書店 昭17
- 11) 大伴茂, 教育診斷學 上巻 培風館 昭3
- 12) 吉益脩夫, 優生學の理論と實際 南江堂 昭15
- 13) 松本亦太郎, 智能心理學 改造社 大14
- 14) 關計夫, デシタルト心理學 金子書房 昭27
- 15) 桐原三郎, 精神測定 三省堂 昭19
- 15) 岡原太郎, 智能性格心理學 河出書房 昭17
- 17) 尼野敬三郎, 名古屋醫誌, 48 卷5號 昭13
- 18) 一丸恕吉, 學校衛生, 5 卷 2~5 號 大14
- 19) 稻葉逸好, 兒誌 434 號 昭9
- 20) 岡崎正見, 體育研究 3 卷3號 昭10
- 21) 小川正夫, 兒誌, 43 卷6號 昭12
- 22) 久保良英, 兒童研究所紀要 13 卷11號 昭5
- 23) 下田良, 日本學校衛生 19 卷10 號 昭6
- 24) 高橋辰五郎, 北越醫學誌, 35 卷1 號 大9
- 25) 東京市, 日本學校衛生, 22 卷10號 昭7
- 26) 三田谷啓, 兒童研究, 24 卷9號 大10
- 27) 松本久雄, 兒童研究所紀要, 9 卷5號 大15
- 28) 高口保明, 民族衛生 4 卷3號 昭10
- 29) 高口保明, 十全會誌 40 卷11 號 昭10
- 30) 高口保明, 十全會誌 42 卷11~12 號 昭12
- 31) 渡邊徹外, 日本心理學會誌 2 大13
- 32) 河村榮太郎, 金大解剖業績集 16
- 33) 内村祐之外, 臨牀の日本, 9 卷 昭16
- 34) 淡路圓次郎, 軍隊性能検査 心理學研究, 1 大13
- 35) 今井良平外, 日本學校衛生, 14 卷12 號 大15
- 36) 淺野成俊, 優生學 3 卷5號 大15
- 37) 喜多浦哲太郎, 學校衛生, 13 卷 昭8
- 38) 喜多浦哲太郎, 學校衛生, 14 卷 昭9
- 39) 垂井實, 海軍々醫會誌 20 卷5號 昭6
- 40) 本郷直喜, 耳鼻咽喉科會報 39 卷10 號
- 41) 樋口正規外, 學校衛生, 18 卷4~6 號 昭13
- 42) 藤本克己, 教育心理學研究, 10 卷
- 43) 中脩三, 福岡中央兒童相談所紀要1輯 昭24
- 44) 尼崎三郎, (43) 參照
- 45) 菅又淳一, 精神經學誌, 52 卷1 號 昭25
- 45) 齋藤徳次郎外, 民族衛生, 17 卷3,4 號 昭25